

# Cfan

集う、繋がる、好きになる!

-シー・ファン-

2026\_SPRING

FREE ¥0

Vol. 08

障がいのある方々や高齢者、子どもたちの活躍や、福祉に関して意識高くサポートしている企業や団体、現場で働くスタッフなどを紹介します!



注目の特集

特別対談

最期まで地域で暮らすために

岡田玲子代表理事 × 土師初美院長 × 肥田和明代表

Special interview /

就労継続支援B型事業所 ABivan

フクシのお仕事魅力発見



## CONTENTS

- 02 **特集1 特別対談 最期まで地域で暮らすために**  
 のうび在宅クリニック  
 おかだ れいこ はじ はつみ ひだ かずあき  
**岡田 玲子**代表理事 × **土師 初美**院長 × **肥田 和明**代表
- 07 **どんな方でも観に来れる シネマ@多治見同好会**  
 心の拠り所をつくる
- 09 **我が子に向き合って進路を考える 2025年度 PTA会長 梶田 義幸**さん  
 岐阜県東濃特別支援学校 かした よしゆき
- 11 **新しい「つながり」が生まれる場所 C-fan Café**
- 13 **頼れる先が増えると、人生は今よりもっと自由になる**
- 14 **一歩で広がる新しい世界**
- 15 **就労選択支援セラ 事業所紹介**
- 17 **特集2 フクシのお仕事魅力発見**  
 就労継続支援B型事業所 ABivan(アビヴァン) **大池 優美**さん  
 おおいけ ゆみ
- 19 **船戸 政清**さん 就労継続支援B型事業所 ABivan(アビヴァン)  
 ふなと まさきよ
- 21 **長屋 絵美**さん 生活介護事業所 クリパラボ  
 ながや えみ
- 23 **C-fan編集部 イベントレポート** き業展/多治見ふるさとしごと塾
- 25 **こころと身体 の健康増進室**
- 26 **障がいがあってももっと楽しめる グルメ特集**  
 LOTUS / ポンジョル豚 多治見店 / きたひつじ / フジ山 多治見店

TAJIMI C-POWER

## 地域 × 福祉

つたえる、つたわる  
 魅力発信プロジェクト

多治見市の福祉が今よりもさらに良くなるように、皆様と一緒に考え、行動していきたいと思っています。

私たちは、「誰もが主役のまちづくり」を目指し、自立とは「頼れる先を増やし続けること」を目標に掲げ、さまざまな活動をしています。



C-fan は、このまちの魅力、頑張っている人、多治見の福祉の魅力をたくさん盛り込み、皆さまのもとにお届けします。

### 障がい者の「しごと」をつくる

障がいのある方が、住み慣れた地域で「個々の特性に応じて、安心して、長く働ける」ことを目的に、「働きたい」という気持ちに寄り添い、その気持ちに応えたい企業様とつながっています。



### 福祉業界の「はたらく」をつくる

福祉業界は人が足りていないと言われています。福祉の担い手を増やすために、福祉の多様性や仕事の魅力について、実際の働く現場から見えてくる創造性、感じる魅力や課題について発信します。

### 福祉とデザインの「モノづくり」

障がいのある方がアートやイラストなどのモノづくりを自由に発信できる場所を提供し、新しいチャンスや道しるべとなる活動を行います。「作品を発信できる場所」と「経済的対価を得られる仕組み」の環境を整えています。

### 福祉コミュニティを「にぎやかに」

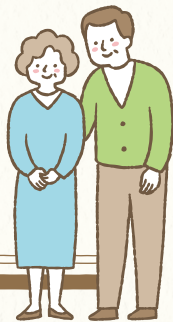
「バリアをなくそう多治見から」を合言葉に、バリアをなくしていく活動や、『自立』とは何か、また、『自立』を支えるためにどうしたらいいかを専門家と共に考え、やるべきことを具体的にしていく活動を行っています。

福祉・介護支援という特性上、状況においてソーシャルディスタンスを保てない場合や、掲載写真において撮影のためにマスクを外している場合がございますが、各事業所でコロナウイルス感染予防対策を行っております。ご理解の程よろしくお願いいたします。

## 巻頭特集

# 最期まで 地域で暮らすために

在宅医療が支える地域での暮らし



のうび在宅クリニック  
代表理事  
おかだ れいこ  
岡田 玲子さん



のうび在宅クリニック  
院長  
はじ はつみ  
土師 初美さん



C-POWERグループ  
代表  
ひだ かずあき  
肥田 和明

自宅での生活を続けながら、必要な医療や支援を受ける在宅医療。  
多治見市周辺で訪問診療を行うのうび在宅クリニックでは、  
医療だけでなく福祉や地域のつながりとともに、一人ひとりの暮らしを支えています。  
今回の対談では、地域で暮らし続けるために必要な支援について伺いました。

— まずは自己紹介をお願いします

**土師** のうび在宅クリニックで院長  
をしております、土師初美と申しま  
す。もともとは麻酔科を専門に診療  
を行なっていました。

在宅医療には、岡田から声をかけ  
てもらったのをきっかけに関わるよ  
うになりました。主人をはじめ周囲  
に在宅医療に携わっている人が多  
かったので、在宅医療がまったく遠  
い存在ではありませんでしたが、自  
分にとっては少し違う分野に飛び込  
んだという感覚もあります。今も  
日々学びながら、在宅医療に向き  
合っています。

**岡田** のうび在宅クリニックで代表  
理事をしております、岡田玲子です。  
これまで20年以上、医療関係の仕事  
に携わってきました。

在宅医療に関わり始めたのは、15  
年ほど前に調剤薬局で働いていた頃、  
介護部門の立ち上げに関わることに  
なったのがきっかけです。その経験  
を通して在宅医療に触れ、その後、  
別の訪問診療クリニックの立ち上げ  
にも関わらせていただきました。  
そうした中で、職員や先生方が働



きやすい環境であることが、結果として患者さんにより良い医療を提供することにつながるのではないかと感じるようになりました。

その思いから、いつか自分たちでも立ち上げができればいいなと思っていたところ、ご縁があり、多治見市でのうび在宅クリニックを開業することになりました。2025年5月に開業し、9月頃から本格的に稼働を開始して、現在で半年ほどになります。

**肥田** POWERRグループの代表をしています。肥田和明です。2002年にデザインの個人事務所としてスタートし、2012年から障害福祉事業に取り組んでいます。障害福祉をより理想的な形にしていきたいという思いから、現在はライフステージに合わせた障害福祉サービスを11事業所展開しています。

その中で、グループホームの運営にも関わっていますが、利用者の方が65歳を迎え障害福祉サービスの枠を超えたときに、その先の暮らしをどう支えていくかという課題に向き合う機会が多くありました。そうした背景から、医療との連携を強くして、その方が安心して暮らし続けられる環境をつくっていききたいと考えています。

## 訪問診療とは

—のうび在宅クリニックの主な事業を詳しくお聞きしたいです

**岡田** 当院では、訪問診療を主体に行っています。患者さんのご自宅や高齢者介護施設、障がい福祉施設などに伺い、診察をしています。

一般的には、患者さんが病院へ行き、診察室で医師の前に座って診察を受ける形が多いと思いますが、訪問診療はその逆になります。医師が病院を出て、患者さんのご自宅や施設に伺い、生活の場で診察を行うのが特徴です。患者さんの目の前に医師が座り、その方が暮らしている環境も見ながら診察を行なっていきます。

**肥田** その形を取ろうと思った背景はあるんですか？

**岡田** 必要な支援にたどり着いていない高齢の方や障がいのある方がいる中で、こちらから外に出て支援を届けていきたいという思いがありました。

また、病院での診察では、どうしても患者さんの一部しか見ることができないと感じています。一方で、訪問診

## 在宅医療とは

病気や加齢などにより医療機関への通院が難しい方に対して、自宅や高齢者施設などの生活の場に医師や看護師が訪問し、診察・治療・健康管理などを行うことです。医療・介護関係者が患者さんやご家族と相談しながら、計画に基づいて定期的に訪問します。



ご自宅・施設へ訪問

## 在宅医療チーム

各専門家が連携して支援します。

- 主治医・訪問医
- 看護師
- 歯科医師・歯科衛生士
- 薬剤師
- 医療ソーシャルワーカー
- ケアマネジャー
- 理学・作業・言語療法士
- ホームヘルパー
- 管理栄養士

など



療ではご自宅に伺うことで、患者さんご本人の様子だけでなく、ご家族との関係や日々の生活の様子まで含めて見ることが出来ます。

患者さんの状況をより深く把握できるからこそ、「他にも必要な支援があるのではないかと気づくことができて、行政や他のサービスにつなげることもできます。大変な面もありますが、そこに訪問診療の面白さや楽しさを感じていますし、一人でも多くの方を必要な支援につなげていきたいと考えています。

**士師** 在宅医療では、ご本人やご家族の希望に沿って支援を行います。そのため、それぞれの思いをすり合わせていく中で、病院では選択されにくいような支援を選ぶこともあります。単に病気を治すだけでなく、その方の生活に寄り添う必要があるというところが、在宅医療の難しさでもあり、やりがいだなと感じます。

**肥田** 在宅医療だからこそ、患者さんの生活の中に深く関わることが出来る一方で、どこまで踏み込むべきかという判断はとても難しいと感じました。どのような考え方で関わり方のバランスを取っていますか？

**岡田** 障害福祉の現場とも共通する部

分があると思うのですが、患者さんに踏み込みすぎないことも大切で、そのために、ある程度の線引きを意識しています。

訪問診療として関わられる範囲には限りがありますし、在宅医療はチームで支えていくものです。ケアマネジャーや訪問看護など、それぞれの役割がある中で、自分たちの立場をお伝えしながら関わるようにしています。

また、患者さんの思いに深く入り込みすぎると、本当にその方のためになっているのか、治療として何が必要なのが見えにくくなることもあります。そのため、一定の距離感を保ちながら関わることを心がけています。

必要に応じて、「ここはご家族で考えていく部分ですね」「こちらは行政の支援につながるの良いかもしれない」といった形でお伝えしながら、役割を整理していくことも大切にしていきます。医療や介護の現場では、適度な距離感を持つことも、質の高い支援につながると思っています。

**肥田** のうび在宅クリニックでその線引きの基準は定めているんですか？

**岡田** 明確に定めているわけではありませんが、当院は日頃から顔を合わせ、お互いの考え方を理解し合っているメ

ンバーで構成されています。そのため、「この先生であれば任せられる」という信頼感があり、同じ思いを持った医師が集まっていることが、判断の土台になっています。

**肥田** 同じ思いのメンバーが揃っているのは、理想的な形ですね。

## 高齢化社会の在宅医療の現場

——高齢化社会が問題になっていますが、在宅医療の現場で起きている状況を教えてください。

**岡田** 最近特に感じているのは、高齢の障がいのある方が増えていることです。障がい者グループホームに高齢の

方が入居されているケースがあり、中には80代の方が生活されていることも見受けられます。

本来であれば、そういった方々はサービス付き高齢者向け住宅など、別の選択肢につながるケースも多いと思いますが、制度や費用の面などさまざまな理由から、十分に移行できていない現状があります。その結果、本来グループホームを必要としている若い方が入りにくくなっていると感じる場面も増えてきました。

障がいのある高齢の方と、若い方の行き場、その両方が不足していることで、社会全体のバランスが少しずつ崩れてきているのではないかと強く感じています。

**士師** 岡田の話にもあったように、施設の不足は現場でも感じていますし、それに加えてご家族との関わり方が難しくなっているケースも増えていると感じます。

若い世代が減り高齢の方が増えているという社会全体のアンバランスさの中、支える側の人手が十分でないこともあり、結果として一部の人に負担が集中してしまっている状況も少なくありません。そのため、誰がその方を支えていくのかが見えにくくなってい



たり、どこで誰に支えてもらえばいいのかわからないという方が増えている印象があります。

若い頃は自分でできると思っていたことが、いざできなくなったときに、頼る先がわからず困っている方が多いというのも、現場で感じている課題の一つです。

——高齡の障がいのある方を支援するときに難しさを感じることはありますか？

**肥田** 私がずっと意識しているのが、障害福祉と高齡者福祉のギャップです。

障害福祉サービスは、その人自身ができないことを補いながら、「その人が実現したいことをどう叶えるか」という視点で支援が行われます。一方で、介護サービスは「誰がその人を支えるのか」という視点が強く、介護者側の負担軽減という考え方でサービスや福祉用具が提供されることが多いと感じています。

そうした考え方の違いに加えて、制度面でも大きな課題があります。障がいのある方は65歳になると介護保険へ切り替わる仕組みになっていますが、



その仕組みの中で年齢によって一律に制度が変わることに違和感を感じています。

また、障がいのある方の介護は家族、特に親が担っているケースが多く、その親自身も高齡化していきます。そのため、親亡き後にどのように暮らしていくのかという点も、大きな課題となっています。

**岡田** 肥田さんが話されたように、必要な福祉サービスを利用できていない方が多いと感じています。最近では、いわゆる「8050問題」だけでなく「9060問題」といわれるようなケースも増えており、親が亡くなったあとに、支援を受けないまま生活環境が崩れてしまう方も少なくありません。

精神科で診断は受けていても、これまで障害福祉サービスや介護サービスを利用してこなかった方が孤立しているケースもあり、現場でも課題を感じています。そうした方に対して、すぐに支援を入れようとしても、制度上すぐに利用できるサービスが限られており、結果として訪問看護など医療的な支援から関わらざるを得ないこともあります。

また、障害福祉サービスは利用開始まで認定や手続きで3ヶ月かかるため、その間の支援が自費になってしまいうなど、経済的な負担も大きくなりやすい状況です。

こうした現状を踏まえると、障がいや福祉サービスについて、より多くの方に知ってもらいたいと思います。

**肥田** おっしゃる通りだと思います。本当にその通りで、親がいなくなった瞬間に、何から手をつけたらいいのかわからないという状況が絶対にあります。だからこそ、もう少し前の段階から情報提供や支援につなげていくことで、ご本人だけでなくご家族にとっても、安心して過ごせる時間が増えていくのではないかと感じています。

**士師** 在宅医療に関わるようになって、ご自宅に伺った際に、「これまで

どうやって生活してこられたんだらう」と感じる方に出会うことが少なくありません。そうした方が実際に多くいらっしゃることに、今も驚かされることがあります。

岡田と一緒に訪問する中で、その方にもどのような制度やサービスが必要なのか、どのような手続きをすれば利用できるのかをお伝えしながら、支援につなげていくようにしています。

## はちまる・ごうまる 8050問題とは

経済的・精神的な負担が大きくなる社会問題のことです。引きこもりの長期化・高齡化を背景に、子どもが無収入・低収入で親の年金を頼りに生活しているケースも少なくありません。

親に介護が必要になったり、親が亡くなったりすると、生活が成り立たなくなるおそれがあります。本人や家族が周囲に相談しにくく、地域から孤立しやすいため、問題が表面化しにくい傾向があります。

## 最期まで地域で暮らすために

——「最期まで地域で暮らす」とはどのような状態をさすのか、皆さんのご意見をお聞きしたいです。

**岡田** 「地域で暮らす」ということについて、国としては在宅での生活が望ましいとされていますが、実際には医療だけで成り立つものではなく、在宅で生活を続けていくためには、医療と福祉が連携したチームとしての支援が不可欠です。医師が中心となるのではなく、あくまでチームの一員として関わり、ケアマネジャーや相談員、訪問看護師など多職種がそれぞれの役割を担いながら支えていくことが重要だと感じています。

その人にとってより良い生活を支えながら、必要な医療を提供していくことで、「最期まで地域で暮らす」という状態を実現できるのではないかと考えています。

**士師** 最終的な治療の判断は医師に委ねられることが多いですが、その判断は、周囲の多職種の支えがあってこそ

成り立っていると感じています。

訪問診療では、医師が毎日患者さんのもとに伺えるわけではないため、限られた情報の中で判断する場面も少なくありません。そうした中で、日々の様子や変化について、他職種の方々から共有いただく情報が大きな支えになっていきます。

それぞれが専門性を持つ立場だからこそ、お互いの視点を理解し合い、コミュニケーションを重ねていくことが、より良い支援につながると感じています。多職種がそれぞれの専門性を持ち寄りながら、患者さんを中心に支えていくことで、その人らしい生活を実現できるのではないかと思います。

**肥田** 私が幼少期に施設の職員に「自立すること」として教えられてきたのは、何でも自分でできるように、最終的には一人暮らしをすることでした。しかし、その考え方には以前から違和感がありました。一人で生活できるようにになることが自立だとされる一方で、それは地域とのつながりが薄れ、孤立した状態につながってしまうのではないかと感じていたからです。

そうした経験から、CPOWERグループでは「頼れる先を増やし続けて自立する」という考え方を大切にして

います。一人で抱え込むのではなく、周囲と関わりながら生活していくことが、自立なのではないかと考えています。

人は誰でも、できないことや支援が必要になる場面があります。だからこそ、日頃から人とのつながりを持ち、頼れる先を増やしていくことが、地域で暮らし続けるうえで大切だと感じています。

住み慣れた場所で  
あなたの身体と心のために



一般社団法人 緑  
のうび在宅クリニック

〒507-0071  
岐阜県多治見市旭ヶ丘1丁目86番地1  
TEL 080-9578-7938

# どんな方でも観に来れる 心の拠り所をつくる

シネマ@多治見同好会



技術担当

しばた あきひと  
柴田昭仁さん

好きな映画：ハリウッド映画全般



会長

ほるやま ようこ  
春山陽子さん

好きな映画：スター・ウォーズ



副会長

わたなべ りえこ  
渡邊里エ子さん

好きな映画：裏窓



会計・運営サポート

わたなべ てるゆき  
渡邊輝幸さん

好きな映画：2001年宇宙の旅

多治見で映画をもっと身近に楽しめる場をつくりたい——

そんな想いから、多治見で上映会を続けているシネマ@多治見同好会。

誰でも気軽に参加できるあたたかな空間づくりを大切にしながら、活動を広げています。

今回は、その活動の様子や想いについてお話を伺いました。

シネマ@多治見同好会を  
立ち上げたきっかけは？

**春山** もともと副会長の里エ子さんとは私は映画が好きで、よく一緒に観に行っていました。その中で「多治見で映画を観られる場所がない」という話になり、「それなら自分たちで上映会をやってみようか」と考えたのがきっかけです。

上映会の開催に向けて運営方法を勉強していた中で、能登の震災がありました。震災を受け、能登が舞台の映画『二獣の系譜』をチャリティ上映する場合は上映料が不要と監督がSNSで発信していらっしゃいました。上映会をしたと考えていた私たちにとつて、「ここでやらなかったらだめなんじゃないか」と感じ、第1回目の上映会を開催しました。この上映会を通して能登へ寄付ができた経験が、現在の活動につながっています。

主な活動内容を  
教えてください

**春山** ヤマカまなびパークの多目的ホールで、年に数回映画の上映会を開催しています。メンバーが集まれる

タイミングで上映会の打ち合わせをしており、そこで開催日や上映作品を話し合っています。また、映画の配給会社とのやり取りも行います。

**渡邊(里)** 上映会の告知のために、お店や学校にチラシを置かせていただいたり、SNSでの発信も行っています。より多くの方に知っていただけるように、日々工夫しながら取り組んでいます。  
**柴田** 上映会当日は、受付や会場運営、映像や音響など、それぞれ役割を分担して運営しています。

活動を通して生まれた  
つながりはありますか？

**春山** 今のメンバーも、活動をきっかけに出会いました。上映会の運営を手伝ってくださるサポートメンバーも、上映会を通して知り合えた方たちです。  
**渡邊(里)** 多治見の映画上映の文化を作っていくという思いに、みんなが手を差し伸べていて、とても心地の良いメンバーだなと思います。

**渡邊(輝)** 上映会で多治見の魅力も発信するために、物販にも取り組んでいます。販売商品を扱うお店の方ともつながりが生まれ、少しずつ地域の中でも関係が広がってきていると感じています。

これまでで印象に残っていることを教えてください

**春山** 『ライオン少年』という映画の上映会で、おばあちゃんと一緒に来ていたお孫さんが、帰るときにとっても丁寧に「ありがとうございます」と声をかけてくれました。その一言がとても印象に残っています。小学生が来てくれたのも嬉しかったですね。

**渡邊(里)** 上映後に拍手をいただけるのですが、「上映してくれてありがとう」という気持ちが伝わってくるような拍手で、そのたびにありがたいな、嬉しいなと感じていますし、「また次も頑張ろう」と思える力になっています。  
**渡邊(輝)** 最初の上映会は、会議室にイスを並べた会場でした。この場所ですべてが来てくれるのか不安もありましたが、実際に足を運んでくださる方がいて、「こういう場を求めている人がいるんだ」と驚いたことを今でもよく覚えています。

**柴田** 友人が観に来てくれたことが、とても印象に残っています。自分がおすすめしていた作品だったこともあり、家族を連れて足を運んでくれたときは本当に嬉しかったです。

活動の中で大切にしていることは何ですか？

**春山** どんな世代の方でも、障がいのあるなしに関わらず、誰でも来られる場にするのを大事にしています。車いす席も確保しているのでも、車いすの方にも気軽に参加していただきたいです。

**渡邊(里)** 映画を観ている時間は、1人で来ても孤独ではなく、同じ世界を共有している感覚があると思っています。そんな「心の拠り所」になるような、温かい場所をつくっていききたいです。

今後の目標を教えてください

**春山** このシネマ@多治見同好会の活動をこれからも継続していき、将来的には活動を引き継いでくれる人を育てていきたいと考えています。

**渡邊(里)** 多治見に、自主上映を行っている団体があることが当たり前になるように積極的に活動していきたいです。

**渡邊(輝)** 上映会の来場者数を150名に増やしたいと考えています。現在はありがたいことに約100名の方にご来場いただいています。若し世代を含めさらに多くの方に映画を届けていきたいです。

本当に良い作品なので、すでにご覧になった方にも、ぜひもう一度足を運んでいただきたいです。

PICK UP!

### Tajimiまちシネマ ~第7回上映会~

上映作品 **最強のふたり**(字幕)

△レイティング PG12

日時

2026年5月31日(日)

①13:30(開場13:00)※ / ②16:30(開場16:15)

※上映後にアフタートークを予定しています

会場

ヤマカまなびパーク 7F 多目的ホール (全席自由)

上映協力費

一般前売り 900円 / 当日 1,100円

中高生 500円 小学生無料

障がい者手帳をお持ちの方とその介助者1名まで300円割引

※未就学児入場不可

※入場者1名につき10円を日本赤十字社へ寄付いたします

購入方法

○ヤマカまなびパーク 5F 窓口

TEL 0572-23-7022

○右記二次元コードから予約のみ受付



お問い合わせ

メール

cinematajimi@gmail.com

Instagram





かじた よしゆき  
岐阜県立東濃特別支援学校  
2025年度 PTA会長 **梶田 義幸**さん

- 子どもの進路と親の選択 -

## 我が子に 向き合って 進路を考える

障がいのある子どもにとってどんな環境がよいのか、進路に悩む保護者の方も多いと思います。

東濃特別支援学校の2025年度PTA会長である梶田義幸さんに、これまでの進路選択や学校生活についてお話を伺いました。

**お子さんのことを  
教えてください**

知的障害のある高校3年生(取材当時)の息子がいます。小学校は地元の普通学校の支援学級に通い、中学1年生からの6年間は東濃特別支援学校に通っていました。

**小学校で支援学級を選択された理由を教えてください**

息子の特性や成長の様子を考えると、小学校の段階では普通学校の支援学級で過ごすことが合っているのではないかと考えました。運動会などの行事を含め、地域の子どもたちと一緒に過ごせることも大きな理由のひとつです。将来的には特別支援学校の選択もあると感じていましたが、まずは地元で過ごしてほしいと思いました。

保育園から小学校にかけて、地域とつながりを持ちながら過ごせたことは、親としても大切な経験でした。「この子は地元にいるんだよ」と感じてもらえるような関わりの中で過ごすことができましたのではないかと思います。

**中学生から東濃特別支援学校に通われていかがでしたか？**

地元の学校ではないため、送迎の負

担は増えましたが、中等部から入学し  
てよかったですと感じています。

実際に通い始めてからは、一人ひと  
りにしっかり目が届く環境の中で、安  
心して過ごせていると感じました。障  
がいについて専門的に学ばれている先  
生方ばかりなので、子どもの特性を理  
解したうえで支援していただけること  
がとてもありがたかったです。

三者懇談や保護者との面談の機会も  
しっかりと設けられており、学校の支  
援計画に基づいて子どもの様子や成長  
について丁寧に説明していただける点  
にも安心感がありました。こうした支  
援の手厚さは、特別支援学校ならでは  
の良さだと感じています。

### 入学に向けて、いつ頃から 準備を始めましたか？

小学校4年生頃から、進路を少しず  
つ考え始めました。5年生の段階で、  
親としては特別支援学校の方向で考え  
ていこうと気持ちを固め、支援学級と  
特別支援学校への見学でそれぞれの学  
校の話聞いた中で、支援の手厚さが  
決め手となり、特別支援学校への進学  
を選びました。

地元の中学校に通わせたいという思  
いもありましたが、息子の特性を考え

ると、コミュニケーションの面で難し  
さを感じる場面も想像でき、特別支援  
学校の環境の方が本人にとっても良い  
のではないかと感じたことも理由のひ  
とつです。

情報収集の面では、支援学級の担任  
の先生に相談したり、放課後等デイ  
サービスで一緒に保護者の方からお話  
を聞いたりしながら、少しずつ判断の  
材料を集めていきました。

### お子さんが特別支援学校に 通うとき、心配だったことと 楽しみだったことは？

地元の学校ではないため、何かあつ  
たときにすぐ駆けつけられるのかとい  
う心配がありました。

一方で、特別支援学校ならではの支  
援の中で、これからどんな成長が見ら  
れるのかという楽しみな気持ちもあり、  
できることが少しずつ増えていくので  
はないかという期待感がありました。

### 東濃特別支援学校の魅力を 教えてください

特別支援学校の魅力は、子ども一人  
ひとりが安心して過ごしながら、自分  
の良さや得意なことに気づける環境が  
あることだと感じています。



日々の学習や作業の中で、できるこ  
とが少しずつ増えていく実感を持ちや  
すく、「自分はこれができる」というや  
りがいにつながっているように思いま  
す。作業学習の授業など、基本的な作  
業から始まり、少しずつ細かい作業や  
難しい工程にも取り組めるようになり、  
自分の成長を感じられる機会が多くあ  
ります。

息子も紙工班のリーダーを任せてい  
ただいた経験が本人にとって大きな自  
信につながっていると感じています。

### お子さんが学校に通い始めて、 変わったなと思うことは？

通い始めてから、以前よりもよく話  
すようになりました。行動のパターン  
自体は大きく変わっていませんが、お  
そらく心の中で自信がついたことで、  
声も大きくなりました。学校での生活  
の中で、自分ができることと難しいこ  
と、また周りの子どもたちとの違いを  
自然に感じられる環境だからこそ成

長だと思えます。  
また、すべてを周りに頼るのではな  
く、完璧でなくても自分の力で取り組  
むことを少しずつ身につけられている  
ことは、大きな成長だと感じています。

### 障がいのある子を持つ保護者の 方へメッセージをお願いします

障がいといっても、特性や状況は一  
人ひとり違います。まずは子ども  
ファーストで考えることが何より大事  
だと思います。日々の生活の中で忙し  
さもありませんが、できるだけお子さん  
と向き合う時間を持つことを大切にし  
ていけるといいのではないのでしょうか。  
保護者が子どもが一番の味方であり、  
そばにいてくれる存在がいるというこ  
とが、子どもにとって安心感の土台に  
なると思います。



岐阜県立  
東濃特別支援学校

〒509-5101  
岐阜県土岐市泉町河合根ノ上1127-10

電話 0572-55-4821  
F A X 0572-55-4829  
対応地域 東濃西部地区



新しい「つながり」が生まれる場所

# Cfan Café

## 2026年6月中旬のOPENに向けて準備中！

おいしい明日を、  
みんなで創る。



### ヤマカまなびパークに、新しいカフェ空間が誕生します

所在地

ヤマカまなびパーク 多治見市学習館内  
(多治見市豊岡町1丁目55番地)

営業時間

10:00～17:00(予定)  
※月曜日・年末年始等は休業

「おいしい明日を、みんなで創る。」

C-POWERグループは、この志をさらに広げるため、新たに「食品サービス事業」に挑戦します。

このカフェは、単に食べ物を提供する場所ではありません。人と人が自然につながり、安心できる時間を共有できる場所です。C-POWERグループが掲げる「頼れる先を増やし続ける」という使命を、“食”という形で実現していきます。

代表メッセージ

食事は、人と人をつなぎ、安心や幸福を生み出します。Cfan Caféは、誰もが“おいしい”を感じられる場所にしたい。

一人ひとりの“おいしい”を持ち寄り、それが広がっていくことで、未来はもっと豊かになる。そう信じて、この場所をつくります。

C-POWERグループ 代表取締役  
肥田和明



## ◆ C-fan Cafeのコンセプト

C-fan Caféは、公共施設ならではの安心感を大切にしながら、「誰にとっても“ちょうどいい居場所”」を目指します。

### ◆ 短時間利用OK

学習や講座の合間に、わずか3～5分でも利用可能。忙しい日常の中でも、気軽に立ち寄れる設計です。

### ◆ 公共施設としての安心

アルコール・喫煙は一切なし。子どもから高齢者まで、誰もが安心して過ごせる環境を整えています。

### ◆ 「また来たい」をつくる工夫

・無料Wi-Fi・電源完備  
・見やすい大きなメニュー表示  
・合理的配慮の“見える化”  
細やかな配慮が、自然なりリピートにつながります。

## ◆ C-POWERグループならではの強み

### 1 お洒落で効率的な店舗運営

デザイン・マーケティング・IT事業を行っているSMC-POWERで、魅力的な空間づくりと業務効率化を両立。

### 2 SNS活用とC-fanによる集客

地域情報誌「C-fan」との連携で、福祉と地域をつなぐ情報発信を強化します。SNSでも積極的に発信します。


### 3 福祉事業連携による人財確保

就労継続支援A型・B型事業所(TRID等)との連携で、安定した人材確保と福祉的な就労の場を提供します。


## ◆ 未来への挑戦 -アバター喫茶の導入へ-

C-fan Caféでは、将来的に遠隔就労(アバター接客)の導入を予定しています。

- 月1回の実証実験から開始
- 遠隔操作ロボット(OriHime等)を活用
- 外出困難な方の就労機会を創出



誰もが“働ける場所”を創出します。



パン・サンドイッチ・カレー・カップラーメン・スープ・ドリンクなど手頃でおいしいメニューを計画中!

「ちょっと働いてみたい」その気持ちを、大切に。

## 未来の働き方、ここから。

C-fan Caféでは、一緒にお店づくりに関わってくださる方を募集しています。特別な経験やスキルは必要ありません。

「やってみたい」「関わってみたい」その気持ちがあれば大丈夫です。

接客や簡単な作業から、無理のない形でスタートできます。

ここは、働くことを通して人とつながり、自分の役割を見つけていく場所です。

まずは見学・体験からでも大歓迎です!

お問い合わせ

株式会社C-POWER  
(就労継続支援A型事業所TRID)

TEL 0572-26-8088



# 頼れる先が増えると、人生は 今よりもっと自由になる

C-POWERグループ 肥田和明  
代表取締役



## それでも、私は“選びたかった” — 親元を離れて育った私が持ち続けた問い —

### 親元を離れた18年間

私は、生まれつき<sup>※ せんてんせいいたはつせいかんせつこうしゆくしょう</sup>「先天性多発性関節拘縮症」という障害があります。そして、生まれてから18年間、親元を離れ、施設で暮らしました。家族と一緒に暮らすという当たり前は、私にはありませんでした。

まだ小さかった私は、「どうして家に帰れないのか」をうまく言葉にできませんでした。制度のことも事情も分かりません。ただ、「離れて生きる」という事実だけがありました。夜になると、静かな部屋の天井を見つめながら、「お母さんは今、何をしているのかな…。会いたいなあ。」と考えていました。

泣きそうになることもありましたが、でも、抱きしめてくれるのは家族ではありません。優しくしてくれる大人はいました。感謝もあります。けれど、小さな私の心の奥にあった寂しさは、簡単には消えませんでした。

### 決められた生活の中で芽生えた思い

施設での生活は、多くのことが決められていました。毎日の食事の量も内容も、トイレの時間も回数も、お風呂の曜日も。私の1日は、私以外の誰かによって整えられていました。

子どもながらに、こんな思いが浮かびました。

「どうして、自分のことなのに、自分で決められないのだろう。」

私は11回の手術を受けました。何度も挑戦しました。でも、歩くことはできませんでした。

今振り返ると、私は歩きたかったのではなく、「自分で選びたかった」のだと思います。「やる・やらない」を自分で決めること。挑戦するかどうかを自分で決めること。けれど、「やってみたい」と思うことすら選択肢にない。挑戦する場所に立つことさえできない。それが、あの頃の私でした。

### 施設での暮らしが残した問い

18年間の寂しさは、今も心のどこかに残っています。ふとした瞬間に、あの静かな夜の天井がよみがえることがあります。けれどその時間は、単なる悲しみではなく、私に1つの問いを残しました。

人は、どうすれば「選べる」ようになるのだろう。

選べない環境は、人の可能性をどれだけ狭めてしまうのだろう。そして、どうすれば人は自分の人生を取り戻せるのだろう。この問いを抱えたまま、私は成長していきます。

高校生になったとき、安心できる環境を離れる現実が、再び私の前に立ちのびてきます。私は、恐怖で動けなくなりました。次回は、そのときの話をします。



※ せんてんせいいたはつせいかんせつこうしゆくしょう  
※ 先天性多発性関節拘縮症とは

生まれつき手や足などの関節がかたく、動かしにくい状態のことをいいます。関節が曲がりにくい・伸びにくいなどの特徴があり、症状の程度は人それぞれです。リハビリや装具、環境調整などにより、生活しやすくするための支援が行われます。





C-fan編集部

安田 梨紗

Risa Yasuda

愛知県刈谷市出身の高校2年生。皮膚の難病・表皮水疱症と付き合いながら通信制高校に通う。就労体験をきっかけに興味を持った、分身ロボット OriHime で世界を広げている。

# コラム 一歩で広がる 新しい世界 vol.1

この連載では、高校生活や分身ロボット OriHime との出会いを通して、私の世界が広がっていった体験をお届けします。読者の皆さんにとっても、新しい選択肢や視野が広がるきっかけになれば嬉しいです。

今回は第1回ということで、分身ロボット OriHime とはどんなロボットなのか、そして私が OriHime と出会ったきっかけについてご紹介します。

## OriHimeとは？

障がいなどの理由で外出が難しい人でも、その場にいるように参加したり、会話をしたりできるロボットです。スマートフォンやパソコンから離れた場所でも操作することができ、日本全国や海外など、さまざまな場所とつながることがができます。カメラを通して周りの様子を見ることができ、会話だけでなく、首や腕を動かしてポーズをとることもできます。

## 興味を持ったきっかけ

私が OriHime に興味を持ったのは、OriHime を使った就労体験に参加したことがきっかけでした。カフェでの接客で、注文を取ったり、お食事中のお客様とお話をしたりしました。

OriHime の操作自体はそれほど難しくありませんが、お話をしながら同時に操作することには、慣れるまで少し苦労しました。それでも、楽しく接客

## 出会いから広がった世界

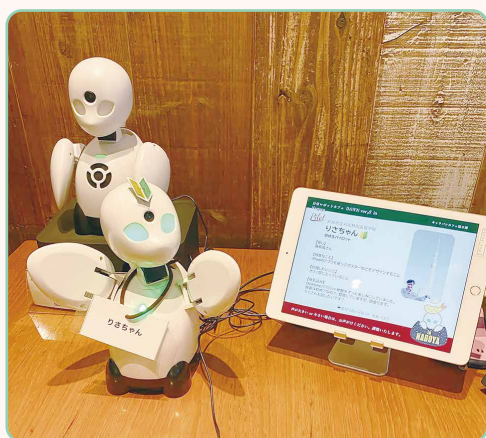
この体験を通して、私の世界が大きく広がったように感じました。就労体験をきっかけに、OriHime を連れて外出してくださる方や、OriHime パイロット(OriHime で仕事をしている人)などと SNS でつながるようになりました。その後、OriHime に入ってきたさまざまな場所へ行く機会も増えていきました。実際にその場所へ行き、現地の人と会話をしていると、離れた場所にいるのに「本当にその場にいるような



就労体験の様子  
おでこに初心者マークを付けています！

感覚」になることがあります。それが OriHime の不思議で魅力的なところだと思っています。  
OriHime を使うようになってから、以前よりも人との出会いが一気に増えました。直接会ったことのある人は多くありませんが、OriHime を通してたくさんのつながりが生まれています。  
OriHime があれば、行きたい場所にどこへでも行ける。そんな私の「分身」のような存在です。

次回からは、実際に OriHime で訪れた場所や体験したことなどを、具体的に紹介していきます。ぜひ楽しみにしていってください。



令和7年12月1日 スタート

# 就労選択支援事業所 セラ

働きたい気持ちはあるけれど、不安がある。どんな仕事が合うのかわからない。そんな人が、自分に合った働き方を見つけるための支援として「就労選択支援」という新しい制度が始まりました。

## ● 就労選択支援とは？

就労選択支援は、令和7年10月1日から始まった障害福祉サービスです。障がいのある方が就労先、働き方についてより良い選択ができるよう、就労アセスメントを活用し、本人の希望や能力、適性を整理しながら、就労先や働き方の選択を支援します。

※就労の可否やどのサービスを利用するかは振り分けをするものではありません。

## ● アセスメントとは

一般的には客観的な基準に基づいて評価・査定することです。就労選択支援が実施するアセスメントは、「その人の強みを発見すること」です。強みやできることを見つけ、その結果をまとめた資料は、これからの働き方を考え、本人が進路を決めるための参考となる情報として活用されます。

## ● なぜ就労選択支援という制度ができたのでしょうか？

障がいのある方の就労能力や一般就労の可能性について、本人や家族、支援者が十分に把握できず、適切な支援につながらないケースがあることが課題とされていました。また、一度サービスの利用が始まると、進路を見直す機会が少ないケースも挙げられます。

## サービス利用の流れ



## 対象者 …原則18歳以上

新たに就労移行支援や継続支援の利用を希望するまたは継続して利用を希望する障がいのある方

就労系サービスの種類	就労系サービスを		
	新たに利用を希望する方	すでに利用している方	
就労継続支援B型	就労アセスメント対象者(下記以外の者)	令和7年10月1日から原則利用可能	希望に応じて利用可能
	・50歳以上、又は障害基礎年金1級受給者 ・就労経験があり、年齢や体力の面で一般就労が困難になった者)	希望に応じて利用可能	
就労継続支援A型		令和9年4月から原則利用可能	
就労移行支援	希望に応じて利用可能	令和9年4月から原則利用可能 ※利用期間を終えて更新を希望する者	

※15歳以上18歳未満が利用する場合は、児童相談所長が障害福祉サービスを受けることが適当と認め、その旨を市町村長に通知することが必要となる

**利用回数** …利用回数の制限はない

**利用期間** …原則1ヶ月 必要に応じて、進路検討のため1ヶ月以上の観察を行う場合があります。

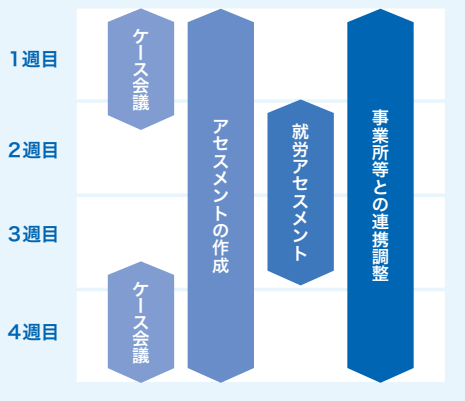
就労選択支援事業所 セラ  
支援員

かわち あきひこ

河内 晃彦



就労選択支援 利用イメージ



こうした背景から、本人の希望や能力、適性を整理し、自分に合った働き方を選べるよう支援する「就労選択支援」が新たに設けられました。

### ● 具体的にどのような支援を 行うのでしょうか？

原則1か月の期間の中で、これまでの生活や働くことへの希望を丁寧に聞き取り、現在の状況を整理します。そのうえで、家族、学校、支援機関や行政などと連携したケース会議を行い、必要な支援について話し合います。その後、実際に就労選択支援事業所等にて、さまざまな活動や作業を体験し、作業の様子や生活リズム、

コミュニケーションなどを通して、その人の強みや働くうえで必要な配慮を整理していきます。

### ● 利用者の方と関わるうえで 大切にしていることは？

利用者の方の思いを丁寧に聞くことです。支援者が答えを決めるのではなく、「一緒に考えてみましょう」という姿勢で寄り添いながら、本人が自分で意思決定できるようにこれからもサポートして行きます。

### ● 一人ひとりに合った働き方を 見つける工夫はありますか？

「できた・できなかった」という結果だけを見るのではなく、その先にある可能性に目を向けています。

一人ひとりにはそれぞれの強みがあります。その強みを見つければ、さらに成長できる可能性を本人と一緒に見出し、出していくことが、私たちの大切な役割だと考えています。



### ● 働くことに 不安を感じている方へ

働くことについて、決して不安や悩みを一人で抱え込まないでほしいと思います。私たち支援員がさまざまな機関と連携しながら、皆さんの将来の目標と一緒に考え、前に進んでいくお手伝いをします。「まだ先のこと」と感じている方もいらつしやるかもしれませんが、その時になってからではなく、早めに準備しておくことが大切です。早い段階から考えることで、焦らず落ち着いて自分の進む道を選ぶことができます。

どんな小さなことでも構いません。一度、就労選択支援事業所セラにご相談ください。将来の自分が「なりたい自分」になれるよう、私たちと一緒に一歩ずつ前に進んでいきましょう。

### お問い合わせ

就労選択支援事業所 セラ  
〒507-0025  
岐阜県多治見市宮前町1-145-3

TEL  
0572-26-8523

受付時間 月～金  
9:00～18:00

アビヴァンでは  
ご利用者様のことを  
「クルー」という愛称で  
呼びんでいます

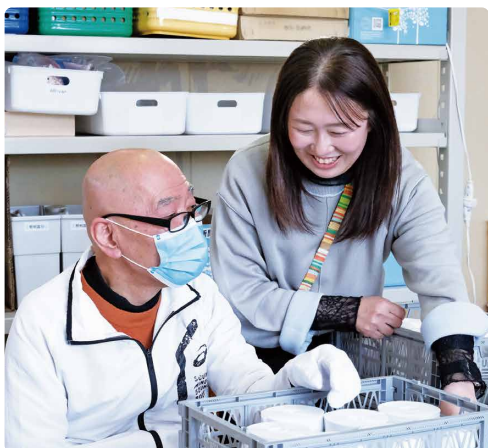
表情やしぐさなどからも気持ちをくみ取り、  
1人ひとりにあった関わり方を意識しています。

事業所の紹介をお願いします。

ABivanは、A型に近いスタイルのB型事業所です。一般的なB型事業所は体調に合わせて通所することが多いですが、ABivanでは「毎日通所」を基本としています。日々のリズムを大切にしながら、クルーがそれぞれの目標に向かって取り組める環境です。

福祉の仕事に携わった  
きっかけを教えてください。

前職は看護師として働いていました。医療と福祉は近い分野でもありますが、知人に「就労支援をやってみたら？」と声をかけてもらったことをきっかけに就労支援に関心をもち、サービス管理責任者の資格取得を目指して思い切って転職しました。



事業所の雰囲気はどうですか？

とてもにぎやかで、クルー同士も仲が良く、和やかな雰囲気です。一方で、作業中はしっかりと集中して取り組んでいます。支援員の皆さんも気さくで、何でも教えてくださいるので、とても働きやすい環境だと感じています。

実際に働いてみて、イメージ  
の変化はありましたか？

正直、最初は「クルーの皆さんは、どこまで仕事ができるのだろう」と思っていました。しかし、ABivanのクルーは本当にさまざまな作業をされていて、とても驚きました。今は、「支援」というよりも、「一緒に働く仲間」という感覚に近いです。

どんなときにやりがいを感じますか？

クルーがその人なりに作業をやり遂げたときや、「ありがとう」と声をかけていただけたときに、この仕事をしていてよかったです。特に、健康面のサポートをした際などに、そうした言葉をいただけると嬉しいです。

就労継続支援B型事業所 ABivan 支援員

アビヴァン  
ABivan

大池 優美さん

Yumi Oike

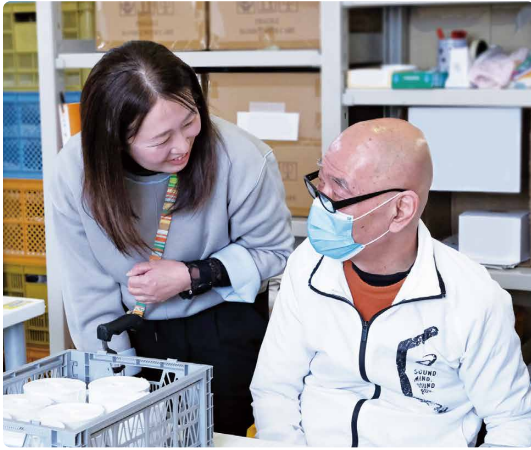
今回のスタッフインタビューはこちらの方！  
看護師から福祉の道へ転職し、現在はサービス管理責任者の資格取得を目指しながら現場で活躍されている大池さんにインタビューさせていただきました。



仕事の途中で大切にしていることを教えてください。

ABivanでは個別支援を大切にしています。クルーの年齢や障がいの程度、体調などは1人ひとり違うため、その方に合った関わり方を意識しています。また、言葉だけでなく、表情やしぐさなどからも気持ちをくみ取れるよう心がけています。

身体に麻痺のある方に対しては、残っている機能を活かしながら、作業を通じてリハビリにもつながるよう工夫しています。例えば、片手でも作業しやすいように道具を工夫したり、細かい作業をあえてお願いすることで、指先を動かす機会をつくっています。



印象に残っているエピソードはありますか？

私の声かけがきっかけで、クルーを不安にさせてしまったことがあります。そのとき、自分の伝え方が曖昧だったことに気付き、「もっとはっきりと分かりやすく伝えることが大切だ」と反省しました。それ以来、言葉の選び方や伝え方をより意識するようになりました。

成長できたと感じることはありますか？

正直、まだ成長しきれていませんが入ったばかりのころに比べたら、一連の作業の流れを把握して、「次はこれをやればいいんだ」と周りに聞かなくても動けたときは、成長できたと手応えを感じます。

今後の目標を教えてください。

今後の目標は、サービスマネジメントの資格を取得することです。今は周りのスタッフに支えてもらいながら取り組んでいます。将来的には1人でしっかりと任された役割を担えるようになりたいと考えています。

### 大池さんの業務内容

#### 作業管理

クルーの作業がスムーズに進められるように、1日単位で作業を考えます。

#### 作業準備

朝礼終了後すぐに作業できるよう、トレーに必要なものを準備します。

#### 声かけ

作業中のクルーが困っていないか声かけをしながら、一緒に作業を進めます。

#### 個人支援計画の作成

クルーの個人支援計画の見直しなどのサポートをします。

#### 健康支援

病院での検査結果をもとに、体調や薬などを確認します。

#### メンタル支援

クルーのお話を聞き、メンタル面のサポートをします。

### Profile

#### 所属年数

所属 6ヶ月

#### 趣味

ゴルフ

#### 休日の過ごし方

家事  
子ども達とモーニングやお風呂に行く

## 利用者さん大募集中！

B型事業所だとのんびり過ぎるけど…A型事業所は少し心配。ABivanは、「個々の能力や才能を活かし、新しいアイデアや変革を先導できる場所」であり、雇用され続ける人財になるための就労継続支援B型事業所です。体験・見学からお気軽にご応募ください。

詳しい情報はWEBにてご確認ください！

お問い合わせ ☎ 0572-26-7707



私たちと一緒に働きませんか？



一般就労・ステップアップを目指している方大歓迎！

インタビューに答えてくださったのは…

ABivanでは  
利用者さんのことを  
クルーと  
お呼びしています



就労継続支援B型事業所 ABivan

クルー

ふなと まさきよ

船戸 政清さん

66歳 | 所属 2年

Profile

障がい 脳出血による右半身麻痺

好きなこと

テレビを見ること

趣味・休日の過ごし方

テレビで野球観戦

週5日、毎日欠かさず通所されている船戸さん。  
ご自身の身体と向き合いながら、  
工夫を凝らして作業に打ち込む日常について伺いました。

ABivanを知ったきっかけと  
通所の決め手を教えてください

最初は妻に勧められるまま、同じ  
C-POWERグループ内のスウィング



ABivanではどのような作業を  
していますか？

商品の数を数えたり、汚れや不良品  
がないかを調べたり、袋詰めをしたり  
など、アビヴァンでは様々な作業を  
しています。

今ではリハビリを経てだいぶ動くよ  
うになりましたが、右半身の麻痺があ  
り右手が少し不自由なので、「今の自  
分にできること」を考えながら丁寧に  
作業するようにしています。

に10年間所属していました。その後、  
他の就労継続支援A型事業所を経て、  
ちょうどアビヴァンが開設されたタイ  
ミングで気分転換も兼ねてアビヴァン  
に異動しました。

? 就労継続支援B型事業所とは

就労継続支援B型事業所は障がいにより企業への就職が困難な方へ、就労機会を提供するとともに生産活動を通して、その知識と能力に必要な訓練などを提供する事業所です。

? ABivanの特徴

クルーの能力や才能を活かしなが  
ら、新しいアイデアや変革を先導し、  
雇用され続ける人財になれるよう  
支援しています。  
B型事業所はのんびり過ぎるけど、  
A型事業所に通うのは心配。そん  
な方にピッタリの雇用され続ける  
人財になるための就労継続支援B型  
事業所です。

アビヴァン  
ABivan

しゅうろうけいぞくしえん がたじぎょうしょ  
就労継続支援B型事業所

アビヴァン  
ABivan

〒507-0048  
岐阜県多治見市池田町1-78  
TEL:080-7156-1149





「自分らしく働ける場所があること」  
それが私を動かす1番のエネルギー

### 船戸さんが得意なことは なんですか？

「これが得意だ」と具体的な作業は分らないですが、どうすればうまくできるかを自分なりにじっくり考え、「指示されたことはきっちりやる」と決めています。

余計なことは考えすぎず、まずは目の前のことに集中して、1日の仕事を全うする。それが自分にできる1番のことだと思っています。

### ABivanでやりがいを感じる のはどんな瞬間ですか？

「1日の仕事がまともに終わった」と感じる瞬間ですね。家で休んでいるとどうしても1日中ぼーっと過ごしてしまいがちですが、ABivanに来ると自然と「よし、働こう」というやる気が湧いてきます。

体の自由が利かないこともあります  
が、毎日休まずにABivanに来て、  
週5日、5時間の作業をやり切る。

本当はもう少しやりたいと思うほど、  
今では私にとってのやりがいにつな  
がっています。

### ABivanで過ごす中で大切に していることはありますか？

同じ作業班のクルー達と冗談を言い  
合ったりして、「コミュニケーションを  
取ることを大切にしています。作業中  
は皆静かに集中していますが、ふとし  
たときに冗談を言い合って、笑いが生  
まれるような雰囲気がいいなと思っ  
ています。

### 今後の目標について 教えてください

世間では定年の年齢ですが、「生き  
ている限り、働けるうちは働きたい」  
と思っています。

病気の後遺症で身体に不自由なところ  
がある分、普通の職場ではなかなか  
難しいこともあります。ABivanの  
ように自分らしくいられる場所で働  
ける、それだけでいいなと思っています。

### ABivanの利用を 考えている方へのメッセージ

「まずは、やってみることに」。それだ  
けです。色々と考えすぎて足が止まっ

### ABivan支援員から

手先が器用でみんなの師匠の  
ような存在です。いつも周囲を  
笑わせて、場を明るくしてくる  
ムードメーカーでもあります！



てしまう前に、まずは飛び込んでみ  
てください。ABivanには、温かい仲  
間と支援員さん、そして新しい自分が  
待っていますよ。

インタビューに答えてくださったのは…

クリパラボでは  
利用者さんのことを  
研究員と  
お呼びしています

生活介護事業所 クリパラボ

研究員

ながや えみ

長屋 絵美さん

47歳 | 所属 6ヶ月

Profile

障がい 脳性小児麻痺

好きなこと

友達とのお買い物

趣味・休日の過ごし方

友達や夫とお出かけ、公園でピクニック



「新しいことや変わったことに挑戦したい」と語る、  
アクティブで前向きな長屋さん。  
クリパラボでの過ごし方や、これからの目標について伺いました。



花菜コースター



クリパラボを知ったきっかけと  
通所の決め手を教えてください

C-POWERグループの肥田社長と  
主人も含めてみんな小学校からの知り  
合いです。昨年、主人が社長に会っ  
たときに、生活のことを相談したとこ  
ろ、「ぜひ、クリパラボにおいでよ」と  
声をかけてくれました。

それまでは岐阜市に住んでいました  
が、学生時代の知人である肥田社長か  
らの紹介ということもあり、安心して  
クリパラボへの通所を決め、多治見市  
に引っ越してきました。



せいかつ かいご じぎょうしょ  
生活介護事業所  
クリパラボ

〒507-0033  
岐阜県多治見市本町4-61  
TEL:0572-56-8859



? 生活介護事業所とは

生活介護事業所は主に日中の時間  
で生活に関する相談や助言、必要  
な日常生活上の支援・創作活動・  
生産活動の機会を提供する事業所  
です。通所により障がいのある  
方々の社会参加と福祉の増進を支  
援しています。

? クリパラボの特徴

研究員が、日々さまざまなことに  
挑戦し、個人のテーマを探求して  
います。  
研究員一人ひとりが自分の「好きな  
こと」や「やりたいこと」を見つけ、  
絵画・書道・楽器の演奏・織物など  
を取り組むことが日課になっていま  
す。



上:努力賞「あじさい」、下:「春がやってきた」

### クリパラボでの活動を教えてください

クリパラボでは主に、編み物をしていきます。コースターやマフラー、車いすのカバーまで、いろいろなものを編んでいます。別の福祉事業所にいたときに、編み方をいろいろ教えてもらい、そこから15年ほど続けています。複雑なものやサイズの大きなものは完成まで2〜3ヶ月かかりますが、コツコツと編んでいます。

また、絵を描くことも好きで、一般財団法人岐阜県身体障害者福祉協会が運営する『ふれあいアートステーション・ぎふ(岐阜県障がい者アートバンク事業)』において、作品『あじさい』が、令和6年度の努力賞を受賞しました。努力賞をいただいたことは、私の励みにつながっています。

### クリパラボで楽しいと感じるのはどんな瞬間ですか？

スタッフさんや研究員の皆さんとお話しているときに、一番楽しいです。私は人と会話をするのが大好きなので、皆さんとのコミュニケーションをとっても大切にしています。

### これからやってみたいことはありますか？

これまでやったことのないことや、少し変わったことに挑戦してみようと思っています。

編み物においても、まだ作ったことのない新しい作品に挑戦していきたいです。これまでは教えてもらいながら作ることが多かったのですが、これからは自分1人の力で、最後まで作品を完成させられるようになりたいと思っています。

また、昔からの友人に、研究員として再会し、今度一緒にご飯に行く約束もしています。実現するにはいくつかが乗り越えることがあります、楽しみにしています。



絵美さんの作品 /

車いすカバー

ブランケット



丁寧に編み物をする絵美さん

### クリパラボ支援員から

毎日欠かさずご自身でお弁当を作り、季節の食材を取り入れるなど、いつも前向きで楽しそうな姿に励まされています！



好きなことを追求するほど  
毎日をもっと輝く



## 多治見市内のイベントに参加しました！

Cfan編集部では、フリーマガジンの発行だけでなく、Cfanのことをより多くの方に知っていただくために、さまざまなイベントにも参加しています。今回は、多治見市内で開催されたイベントに参加した様子をご紹介します。



2026.1.30(金)～1.31(土)

多治見ビジネスフェア

第23回「き」業展

セラミックパーク MINO 展示ホール



毎年1月に多治見市で開催される、地域最大級のビジネスイベント「き」業展にCfanブースを出展しました。

当日は多くの方にブースに足を止めていただき、Cfanの活動について直接お話しすることができました。また、最新号の配布も行い、たくさんの方にCfanを手にとっていただく機会となりました。

中には、昨年の「き」業展をきっかけにCfanを知り、今年もブースに立ち寄ってくださった方もいらっしゃいました。こうした出会いを通して、Cfanが少しずつ広がっていることを感じる、うれしい時間となりました。

### Cfanブース企画

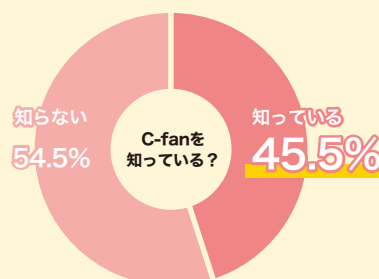
#### オリジナルキャラクターづくり

Cfanのキャラクターのぬりえを用意し、好きな色を塗ったり、自由に形や模様を描き加えたりして、自分だけのキャラクターを作っていました。学生さんやお子さんに楽しんでいただける企画になりました。



#### Cfan認知度アンケート

ブースにお立ち寄りいただいた方に、Cfanの認知度アンケートにご協力いただきました。



2日間合計172人にアンケート

今回のアンケート結果も参考にしながら、これからもより多くの方にCfanを知っていただけるよう活動を続けてまいります。

2026.2.11(水・祝)

## お仕事・サービス体験イベント 多治見ふるさとしごと塾 ～将来マナビジョンⅢ～

セラミックパーク MINO 展示ホール



### C-fan 編集部のお仕事体験内容

#### ①目隠し体験



折り紙を折る



手袋をはめる

#### ②体験レポート作り

感じたことや気づいたことをレポートにまとめてもらいました。シールやペンで自由に装飾しながら、自分の体験を読者に伝える福祉体験レポートを作ってもらいました。

多治見ふるさとしごと塾は、小学生がさまざまな仕事を体験しながら、社会のしくみを楽しく学べるイベントで、お仕事体験でお給料をもらったり、そのお金を使ってサービスを受けたりすることができます。当日はおよそ300名の小学生が参加し、会場はとてにぎやかな雰囲気でした。

C-fanのブースでは、「福祉体験レポートづくり」のお仕事体験を実施し、約50名の子どもたちに参加いただきました。体験の中では、「学校で福祉体験をしたことがある」と話してくれる子どもたちも多く、福祉が子どもたちにとって身近な学びになっていることを感じました。

また、デザイナーを目指しているという子どもたちの参加もあり、「情報を伝える仕事」としてのC-fanの役割をあらためて感じる機会にもなりました。

### 体験してくれた子どもたちの福祉体験レポートをご紹介します!

子どもたちが体験の中で感じたことを自由に表現した、個性あふれるレポートが完成しました。



### 感想もいただきました!

目隠しをして見えなくすると何をするとかも大変ということがわかった。(小6)

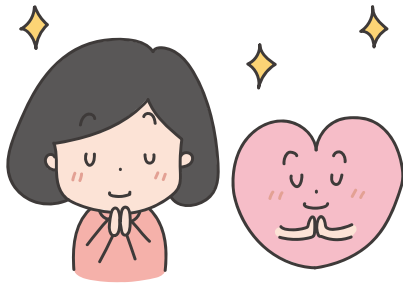


目が見えない人の体験をしたときに折り紙を折るのが難しいことが分かった。(小2)



# こころと身体の健康増進室

FILE 007

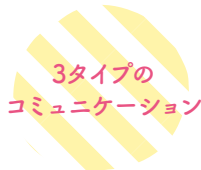


## 『アサーション』とは

～自分も相手も大切にしよう～



アグレッシブ



3タイプのコミュニケーション



アサーティブ



ノンアサーティブ

人との関わり方には、大きく分けて次の3つのタイプがあるとされています。自分自身が普段どのタイプに近いか、振り返ってみましょう。

### 3タイプのコミュニケーション

皆さんは「アサーション」という言葉を聞いたことがありますか。日々の生活や仕事、学校の中で、「本当はこう思っているのに言えない」「つい感情的に言い過ぎてしまった」と後悔することはないでしょうか。

アサーションとは、自分の気持ちや考えを大切にしながら、同時に相手の気持ちも尊重して伝えるコミュニケーションの方法です。自分も相手も大切にする、対等で誠実なやり取りを目指す考え方です。

### 1 アグレッシブ(攻撃タイプ)

自分の意見を強く押し通し、相手を支配しようとするタイプ。「なんでできないの?」といった攻撃的な言い方になりやすく、短期的には思い通りになっても、長期的には周囲との信頼関係を損なう恐れがあります。

### 2 ノンアサーティブ(非主張タイプ)

自分の気持ちを我慢し、相手を優先してしまうタイプ。「本当は嫌だけど断れない」といった状態になりやすく、ストレスを抱え込んだり、後から「どうして分かってくれないのか」と不満が溜まったりすることがあります。

### 3 アサーティブ(バランスタイプ)

自分の気持ちも相手の気持ちも尊重して伝えるタイプ。「私はこうしてもらえると助かります」といった表現を使い、歩み寄りながら納得のいく結論を探ります。

### アサーショントレーニングのポイント

アサーティブなコミュニケーションは、日々の少しの意識で誰でも身につけることができます。最初から完璧を目指す必要はありません。次のポイントの中から、まずは自分にできそうなことを取り入れてみましょう。

### ●「アイ(ー)メッセージ」で伝える

自分を主語にして(私は〜と思う)、自分の気持ちや状況を伝えます。

### ●代替案を提示する

単に否定するのではなく、「今回は難しいですが、〇日なら可能です」といった代替りの案を出しましょう。

### ●素直さと傾聴

自分の気持ちに嘘をつかず素直に伝えると同時に、相手がどう感じているかにも耳を傾けます。自分の意見を一方的に通すのではなく、まずは相手の言葉を最後まで受け止めることで、対話の土台が整います。

### 心地よい関係のために

アサーティブなコミュニケーションを身につけるためには、自分のことだけを考えるのではなく、相手の考えや気持ちを尊重する意識を持つことが大切です。つまり、自分と相手、双方の「目線」を並行して大切にすることです。

これからの社会では、さまざまな価値観を持つ人と関わる機会が増えていきます。だからこそ、アサーティブなコミュニケーションを意識し、自分も相手も大切にすることを築いていくことが大切なのではないでしょうか。

「障がいがあっても **もっと** 楽しめる!

# GOURMET

C-fanでは、合理的配慮※に取り組んでいる  
多治見市の飲食店を紹介しています。  
今回は、これまでに掲載したお店を  
まとめてご紹介します



WEB版はスマートフォンからアクセス!

バリアフリー項目

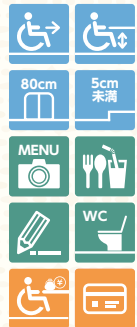
通路走行可能 店内を車いすで移動できる	テーブル下○ 車いすのままテーブルにつける
入口80cm以上 出入口の幅が80cm以上ある	段差5cm未満 店内の段差が5cm未満
写真メニュー メニューに写真が掲載されている	カトラリー対応 お箸以外もカトラリー対応可能
筆談可 筆談での対応が可能	洋式トイレ 同じフロアに洋式トイレがある
自席決済可 席についたままお会計が可能	電子決済可 クレジットカードや電子マネーに対応



多彩なメニューと音楽を楽しむ

WINE&GUMBO      スロープ○      車椅子の走行可  
LOTUS ロータス      軽度な介助○      事前連絡不要

📍 多治見市宮前町2丁目44-1 コーポみやまえ1-B  
☎ 0572-21-6537  
🕒 16:00~21:30(L.O) ※料理提供は17:00~  
【定休日】月曜日・火曜日



本格イタリアンを堪能できる!

欲ばりイタリアン      スロープ○      車椅子の走行可  
ボンジオル豚 多治見店      軽度な介助○      事前連絡不要

📍 多治見市太平町4丁目20コクビル 1F  
☎ 0572-23-5554  
🕒 11:00~15:00(L.O 14:30)  
17:00~23:00(L.O 22:00) 【定休日】火曜日



特製タレで味わうジンギスカン専門店

札幌 成吉思汗      スロープ○      車椅子の走行可  
きたひつじ      軽度な介助○      段差なし

📍 多治見市若松町2丁目38-1  
☎ 0572-22-0887  
🕒 月火金土 | 17:00~23:00(L.O 22:00)  
水日祝 | 17:00~22:00(L.O 21:00)  
【定休日】第3水曜日、木曜日



厳選和牛ホルモンが堪能できる!

和牛ホルモン焼肉酒場      スロープ○      車椅子の走行可  
フジ山 多治見店      軽度な介助○      事前連絡不要

📍 多治見市白山町1丁目61  
☎ 0572-26-8989  
🕒 17:00~翌0:00(L.O 23:00) 【定休日】月曜日



手話対応ができるスタッフさんが  
いらっしゃいます

C-fanでは合理的配慮に取り組む飲食店を募集中!  
掲載のご希望は株式会社SMC-POWERまで!      ☎ 0572-26-7707

※ 合理的配慮とは、人々の幸福や安全を考慮して、適切な支援やサービスを提供することを指します。



# 今できることを見つけないか?

そろそろ、何かしようかな。



その気持ちだけで、十分です。

一緒に、ゆっくり始めませんか?

こんな気持ちはありませんか?

- 家から出るのがこわい
- 人と話すのがしんどい
- 働くななんて、まだ考えられない
- 何から始めたらいいのかかわからない
- 働きたいけど続かない

C-POWERグループでは、「いきなり働く」ではなく、「今できることから」を大切にしています

- 週1日から
  - 短時間から
  - 人と話さなくてもできる作業から
- あなたのペースで始められます

その人らしい一歩を一緒に考える支援を行っています

- 就労移行支援
- 就労継続支援 A型/B型
- 生活介護
- 放課後等デイ(6歳~18歳)
- 相談支援

あなたに合ったサービスにつなげます

C-POWERグループ  
特定相談支援事業所  
CSロープ

まずはお電話にて  
ご相談ください

☎ 0572-26-7973

相談員/吉田・菅原  
<https://c-power.jp/contact>



就労継続支援A型事業所 TRID

“働く”を知る

A型事業所  
見学&説明会

要予約  
&  
無料

卒業後の「はたらく」を一緒に考えてみませんか?



お申し込み方法

右記QRコードからスケジュールをご確認のうえ希望の日時を選択してお申し込みください。

随時受付中!

各日 14:00~15:00



一緒に「Cfan」を楽しみながら盛り上げてくれる

## 読者サポーター 大募集!

登録は  
無料です

読者サポーターって何?

メディアづくりに関するアンケートや、情報提供、イベント参加や商品・サービスモニターなど、一緒に[C-fan]を盛り上げていただく方々のことです。

応募概要

- 障がい者・難病の当事者またはご家族の方(障害者手帳の有無は問いません)
- 企画にご協力いただける方
- C-fanからのメールを受け取れる方

読者サポーターへのご応募はこちら

「お問い合わせ」のアイコンから応募してください

